



池に浮かんだようなキュービックな建物 中央公園

木村 私どもの駅の名前やデザインを決める時、地元の方がいいように決めてください、みなさんのイメージを大切にしたいと申し上げました。私もからみるとどうかな(笑)と思うのもあったのですが、それだけの思いを込めた街づくりをやっていたらそれだけでいいと考えています。このプロジェクトを応援する推進協議会には民間200社以上、地元のみなさん・商工会・商店街・町内会に入っていたら、例を見ない全員参加型のプロジェクトになったのです。これだけのポテンシャルがあるのですから、地域の方々がこういう街にしたいというビジョンを大切にしながら進めること、いい街づくりの実現へとすすめていただきたいと思います。

田中 駅前通りの街の姿は、その街の象徴です。駅前にはみなさんの地権者の土地が集中している地区もありますので、心配もしております。地権者のみなさんがそれぞれ勝手にビルドアップされると、用途も色も形も雑多な街になって魅力が失われてしまいます。そうならないように地権者の方々と勉強会をして、それぞれの意見をお聞きしながら、開発コンセプトを共有してもらおうとされています。私もその事務所の職員も頑張ってくれています。



つくばの代表的な風景 つくばセンタービルとその周辺

田中 地権者のリーダーがしっかりされているとうまくいく、そのリーダーを見つけることがまず大事なんです。

島袋 地権者と市民の間にも隔たりがありますね。プライベートな都合もあるでしょうが、そうはいっても大事な場所ですから、やっぱり地域の市民の駅前への期待を感じていただきたいと思いますからね。

田中 地域の資源を掘り活用する、そしていろんな方々と連携をしながら、ゆとりのある生活ができる街をつくってほしい、そのためには市民、企業、大学、鉄道会社、公共団体のみなさんと夢を共有し、分担しながら街をつくっていかねばならないと思います。そうする

木村 つくばエクスプレスが開通するまで、UR都市機構は関係の方々の大変な苦労があつてやっとならぬまで漕ぎ着けました。しかし、つくばエクスプレス沿線の住宅地の地価上昇率が日本一というところになって注目を集めていますが、思わぬ方向にならないか心配もあります。多くの方々に喜ばれる住みやすい街になって欲しいからです。私もTとXのマークは未来への掛け橋を象徴していますが、21世紀の地域の方々の夢・希望を託せるよう、私どもの鉄道が掛け橋になればと願っています。

田中 さてこの鉄道と街をつくるのもう一つの重要なテーマが「連携」です。鉄道会社自身が沿線の公共団体の出資によって成り立っていますし、沿線の開発



と持続可能なニュータウンにだんだん近づいていく、そのような生活の隅々に入りの心のネットワークが張られ、安心して暮らせる、いきいき暮らせる街にしていこうのがわれわれの仕事の基本なのでしよう。



田中 ツアーバスを定期的に走らせるとか。
島袋 10月の「つくばスタイルフェスタ2005」では、地域の資源を活用したつくばスタイルを体感していただくために、グリーンツーリズム的な要素も取り入れたツアーが用意されていますよ。

田中 ぴっくりしたのが農業研究センター、昔の様子しか知らなかったのですが、桜の名所ですよと言われて去年行ったら壮

田中 JAXA(宇宙航空研究開発機構)とか産業技術総合研究所のロボットなどいいですね。
島袋 ロボットもいつも公開とはいかないようです。JAXAは案内専門の方がいらつしやいますが、他の研究機関はそれだけの人員を割けない。国土地理院の「地図と測量の科学館」は子どもと行っても大人だけでも勉強になっていいところですよ。



つくば駅 地上出入口の周辺

JAXA(宇宙航空研究開発機構)



田中 機構にも何人か名人がおります(笑)。
田中 さてこの鉄道と街をつくるのもう一つの重要なテーマが「連携」です。鉄道会社自身が沿線の公共団体の出資によって成り立っていますし、沿線の開発

田中 ツアーバスを定期的に走らせるとか。
島袋 10月の「つくばスタイルフェスタ2005」では、地域の資源を活用したつくばスタイルを体感していただくために、グリーンツーリズム的な要素も取り入れたツアーが用意されていますよ。

連携ですすめる これからの街づくり

観でした。あれは隠れた名所です。

島袋 専門ですから名譽にかけて手入れをされたのでしよう。学園都市の中の街路樹も育つて風格が出てきて、季節ごとに楽しみにいられていく方がいます。紅葉も美しいですね。筑波大学の中にも桜の名所があるのですよ。池のほとりとか宿舎の横とか、筑波実験植物園の中にも珍らしい花があるのでお花好きの方はよくいらつしやるようですよ。それらをきつかけにして地域のよさを知っていただくこと、「TX住みたいネット」に登録した方に情報発信するためのお手伝いをしていきます。いまはそは好きの方が多いため、そはの企画って申込みが多い、特に男の方がはまっていらつしやるようですよ。



あちこちに見られる見事な桜並木

も公共団体施行とUR都市機構施行とが連携して進められています。それから大規模な市民の方と連携する構図にもなっています。これが一番円滑な街づくりの方法だと思えます。もうひとつが企業との連携で、住宅デベロッパーや商業事業者、その他多様な事業者との連携です。われわれの街をつくっていくプロセスも従来と違って、いまは民間のデベロッパーに土地を渡し、開発コンセプトを共有しながら、それぞれの特徴を發揮した住宅と住宅地をつくっていただき、街の魅力と価値をあげていく、これが連携のパターンであり成果なのです。デベロッパーの方々も競争しながら参加していただいています。これからの時代はただ住宅を建てればよいというものでもなく、価値を積み重ねるような作り方が大切で、共同で勉強もしています。つくばでも立地企業懇話会をながくやっていて200社以上集まっています。われわれの土地情報提供したり、地権者の方の土地とお見合いをしていただいたりしています。そういう新しい連携で街ができていく仕組みになっています。大学や市



つくばスタイルフェスタ2005でも住宅デベロッパーと連携

島袋 コーディネーターと名乗るようになってから何年か経つのですが、たぶん街づくりの中で役割はいろいろなる人の出番をつくるということだと思えます。ややもすると繋ぐということに躍起になります。なかなかマッチングが出来ない、それよりも出番をつくる、例えばお嬢さんが欲しいと言っている人がいれば、その人にまずフォーカスしてどんなことを考えているのか情報を引き出し発信を手助けする。UR都市機構は街づくりのプロデューサーをなさるわけですが、地元にいる人間の出番もうまく作っていただく、いいビジネス環境が生まれるのではないかと思います。